

令和4年1月吉日

御来場して頂いた一般の方々へ

下関市立大学 地域総合連携研究室
学生代表 森澤理楽

「思い出サタ『お菓子の家』プロジェクト」への御来場についてのお礼

初春の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
ご多忙の折にもかかわらず、令和3年12月14日(火)から18日(土)の5日間、「お部屋ラボ
祝祭の広場」で開催させて頂きました「思い出サタ『お菓子の家』プロジェクト」に御来場
頂きまして誠にありがとうございました。
当日は非常に多くの方々に御来場頂きました。その方々から私たち学生スタッフへ「お菓子の
家ありがとう」「楽しかった、ありがとう」といったバ"温まるお声かけをして下さりまして、
本当にバ"から感謝の気持ちでいっぱいです。

●今回のイベントを通して届けたかった、学生から大分の子供たちへの思い●

このイベントに関わった学生の多くは、日頃から地域の活性化について学んでいます。しかし
2020年以降、新型コロナウイルス感染症の影響によってこれまで当たり前だった「外出」が
出来ず、家の中で過ごす時間が多くなりました。これは子供の情操教育上で最も大切な
時期に屋外に出て五感を育てる事が出来ずという点でも、同時に、地域での
思い出をつくる機会が確実に減った事を意味しています。私たちに学生はこのより状況
を見て「子供たち一人ひとりに街の中でしか体験出来ない非日常の体験をしてほしい」、
「次の世代を担う子供たちの心に残るような思い出をプレゼントするよう事をしたい」と
思っていました。

そんな矢先、2019年12月初めて行われた「思い出サタ『お菓子の家』プロジェクト」の存在を知り
ました。今年、その2回目となるということで私たちに学生は1回目と違い意味合いのイベントが必ず
出来るはずだと直感しました。

しかし私たちに学生だけでは対応する事が出来ないので、地元大分の高校や大学に声を掛けをさせて頂き、事前の広報活動、当日の協力参加をお願いしました。

その結果として、大分市内の高校7校（50音順）大分県立上野丘高校、大分県立大分工業高校、大分県立大分商業高校、大分県立大分西高校、大分県立雄城台高校、大分県立鶴崎工業高校、大分県立芸術緑丘高校）と大分大学の協力を得る事が出来ました。

一方で「お菓子」ですが、このお菓子も地元のお菓子屋やメーカーさん、スーパーマーケット、個人の方々、さらには全国のお菓子メーカーなど多彩な方々からのご支援があったことをこの文面をお読み頂いている方々にご報告させて頂きたい。この事からも企業、行政、市民が丸くなって協働という形で本イベントを運営出来た事に驚きと感動を与えて貰いました。

「大分の子供は大分の大人が育てる」というスローガンの下に実施される。このイベントへの参加に対し、支える事の意義を学ぶ事が出来ました。そして準備をして行く過程で、地域という狭い領域の「うち」と「そと」の関係ではなく、次の日本を見据えた取組みに寄り添って欲しいと思えるようになってきました。この場をバ境にさせて下さった関係者の皆さん、当日会場にお越しになられた多くの方々に対してこの場をお借りして感謝の気持ちをお伝えします。

またイベント開催当日は会場が混雑してしまい十分にご案内をすることが出来ず大変申し訳ございませんでした。不慣れな事で不行き届きの点が色々ありました事ハエリお詫び申し上げます。今後はそれらの全てを本イベントでの反省点として、次の回に活かしていきたいと思っています。

最後にありますが、2021年実施の今回のイベントが開催出来た事、私たちに学生がこのイベントに参加させて頂いた事についても感謝申し上げます。私たちに学生にとってお菓子の家での経験が大分での楽しいクリスマスの思い出として子供たちの中に、いつまでも残って貰える事を願います。この願いが今回参加したお子さんが大人になった時「次は私が（今現在の）お兄ちゃん・お姉ちゃん（生徒や学生）のやりになるよ」と言って貰える日につながる事を期待しながら感謝の意としてお伝えさせて頂きます。

これから冬本番です。寒い日が続きそうですので、どうぞお身体を大切にお過ごし下さい。略儀にて失礼ではございますが、書中をもってお礼のご挨拶を申し上げます。